

指定管理者制度導入施設評価票

評価対象年度	令和4年度		
施設名	秋田・本荘・男鹿マリーナ	設置年	平成 7 年
所在地	秋田市飯島字堀川118番地、由利本荘市石脇字田尻35番地、男鹿市船川港船川字海岸通り1番地20		
指定管理者	株式会社 マリーナ秋田		
県所管課	港湾空港	課 調整・クルーズ・空港 チーム	

1 施設の概要

設置目的	<ul style="list-style-type: none"> ・港湾及び河川・海岸の放置艇の集約を図り、秩序ある水域利用を行う ・海洋スポーツ・レクリエーションの普及・振興を図る ・観光及び教育等、地域活性化に寄与する 					
県の施策上の施設の位置付け	新秋田元気創造プランや各分野の個別計画等における、当該施設の位置付け・目標					
	新秋田元気創造プランや各分野の個別計画等における目標を達成するための取組として、当該施設に求められているもの					
施設の面積	秋田：177,000㎡、本荘：45,000㎡、男鹿：88,000㎡					
主な設置施設	マリーナ施設（ボートヤード、船揚場、棧橋等）、クラブハウス、駐車場					
指定管理業務の内容	料金制	○(利用料金併用制 ・ 完全利用料金制)			無（指定管理料制）	
	料金設定	別紙				
	サウンディング実施対象施設※	×		←○、×を記入		
	指定期間	H31.4.1		～	R6.3.31	
	営業期間・時間	8:00～17:00（通年） 土日 8:00～19:00（4～8月）、8:00～18:00（9月）				
		<ul style="list-style-type: none"> ・使用の許可、取消等の業務 ・維持管理、運営に関する業務 ・利用促進に関する業務 				
自主事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・燃料、船台等の舟艇に係る販売事業 ・レンタルボート、レンタル倉庫等の事業 ・その他、舟艇に関連する様々な事業 ・敷地内で栽培したワカメの刈取りイベント開催 					
直近3年の年間利用艇数	R 2	5,168 艇	R 3	5,176 艇	R 4	5,283 艇
直近3年の年間料金収入	R 2	57,388 千円	R 3	57,129 千円	R 4	57,523 千円
直近5年の収支決算（単位：千円）	H 3 0		R 元	R 2	R 3	R 4
収入計	104,597		107,744	103,154	113,294	113,833
利用料収入	57,883		57,726	57,388	57,129	57,523
指定管理料						
その他収入	46,714		50,018	45,766	56,165	56,310
支出計	101,985		105,293	100,925	109,753	110,933
人件費	59,507		61,463	62,613	61,349	62,466
人件費以外	42,478		43,830	38,312	48,404	48,467
差 引	2,612		2,451	2,229	3,541	2,900

※単年度維持管理・運営費が1億円以上の公募施設について、民間事業者の意見を参考に運営手法や公募要件を検討するため、指定期間終了の2～3年前にサウンディング（官民対話）を実施する。

2 観点ごとの評価

(観点Ⅰ) 施設の設置目的(施設の目指す姿)の達成に関する取組

【ポイント】

施設の設置目的(施設の目指す姿)を達成するための取組がなされ、その効果があったか。

○指定期間における運営方針・施設の利用目標

※協定書に記載した運営方針・施設の利用目標を記載
(R6年度以降に指定管理を開始・更新する施設から基本協定書に定めることとなっているため、それまでは記載不要)

○目標の設定(毎年度、県と指定管理者が協議の上、業務計画書に定める目標)

令和4年度の目標	利用艇数(単月に利用した舟艇の数の12か月合計) 5,371艇
----------	---------------------------------

○指定管理者による実績報告

直近3年の実績	年度	R元年度	R2年度	R3年度
	目標		5,365	5,292
	実績	5,249	5,168	5,176
	達成率	97.8%	97.7%	100.6%
令和4年度の実績	実績	5,283	達成率	98.4%
	具体的な取組とその効果	マリン業者との連携により新規契約者獲得、及び解約艇の流出防止を図った。船舶免許事業者との連携はレンタルボート新規会員獲得に繋がり、レンタルボート会員からの新規専用契約獲得が3艇あった。		
令和5年度の目標(設定根拠)	目標	5,358		
	設定根拠	年度契約更新による専用使用継続368艇を基に、前年実績等から予測した新規専用使用30艇を加算した専用使用延艇数4,743艇に、前年同数となる減免艇339艇、及び前年比95%の月単位の一般使用276艇を加算し、目標艇数5,358艇を決定した。		

※指標が複数ある場合は欄を適宜追加すること。

(観点Ⅰ) の評価

評価欄	評価者	評価	コメント
		指定管理者	B
県(所管課)		B	達成率98.4%と、おしくも目標達成とはならなかったが、令和3年度と比較して利用艇数139艇増という結果である。今後もSNSによるPRやイベント開催と絡めながら、利用艇数の増加を図っていただきたい。

【評価基準】次の基準により評価。基準によらず各区分に相当すると認められる場合は、コメント欄に理由を付すこと。

また、施設の設置目的(施設の目指す姿)を達成するための、指定期間における運営方針・施設の利用目標について、指定期間開始年度から評価対象年度までの達成状況をコメント欄に記載すること。

A: 目標達成(数値目標の場合は100%以上)

B: A及びC以外

C: 目標達成に向けて改善が必要(数値目標の場合は80%未満)

(観点Ⅱ) 施設の有効性(利用者の満足度)の向上に関する取組

【ポイント】

サービスの質を維持・向上するための具体的な取組がなされ、その効果があったか。

○指定管理者による実績報告

利用者満足度の状況 (直近3年)	R元年度		R2年度	R3年度
	64.6%		71.3%	66.9%
令和4年度の実績	実績	73.3%		
	具体的な取組とその効果	オーナー専用駐車場へオーナー外の車両の駐車がある指摘を受け、駐車場誘導看板をリニューアル設置し、各種案内郵送時に駐車場の適正利用を呼び掛けた。		

(観点Ⅱ) の評価

評価欄	評価者	評価	コメント
		指定管理者	B
	県(所管課)	B	看板の設置や利用者へ周知を行ったことで無断駐車が改善したことなどにより、令和3年度と比較して6.4%の改善となった。引き続きお客様からの声を運営に反映することで、満足度の向上を図っていただきたい。

【評価基準】次の基準により評価を行う。基準によらず各区分に相当すると認められる場合は、コメント欄に理由を付すこと。

A：満足度80%以上 B：A及びC以外 C：満足度60%未満

(観点Ⅲ) 効率性の向上等に関する取組

(1) 経費の低減

【ポイント】

施設の管理運営(指定管理業務)に関し、経費を効率的に低減するための十分な取組がなされ、その効果があったか。

○指定管理者による実績報告

令和4年度の実績	経費の低減実績	販売管理経費合計 実績83,077千円 前年比100.4%。 項目別 人件費同101.8% 維持管理経費同97.8% 利用促進費同108.3% その他経費84.5%。
	具体的な取組とその効果	点検強化、内製修繕による修繕費抑制、効率的な備品、事務用品等購入などによる経費抑制。 修繕保守点検費 前年比75.1% 消耗工具备品費 同76.5% 事務用品費 同89.3%

※費用の総額では効果が計れない場合は、例えば利用者1人当たりの単価を算出する方法等も考えられる。

(2) 収入の増加 ※指定管理料制施設を除く

【ポイント】

収入を増加するための具体的な取組がなされ、その効果があったか。

○指定管理者による実績報告

令和4年度の実績	収入の増加実績	売上合計 実績113,833千円 前年比100.5% 項目別 県施設使用料売上 実績57,523千円 前年比100.7% 自主事業売上 実績56,309千円 前年比100.3%
	具体的な取組とその効果	専用艇数確保による専用使用料、施設使用料の売上確保、保管艇修理・メンテナンス等に伴うその他売上(貸し船台等)の売上伸長。 県施設使用料売上 専用使用料 前年比101.7% 自主事業売上 施設使用料 同101.9% その他売上 同104.4%

(観点Ⅲ) の評価

	評価者	評価	コメント
評価欄	指定管理者	B	経費は利用促進費が前年を上回った。収入は艇数増による県施設使用料売上、自主事業売上ともに前年微増となった。
	県 (所管課)	B	令和3年度に対し、経費は100.4%、売上は100.5%といずれも微増となった。燃料費等が高騰する中で、経費削減策を積極的に実施した効果が表れている。

【評価基準】 次の基準により評価を行う。基準によらず各区分に相当すると認められる場合は、コメント欄に理由を付すこと。

A：(1) 経費の低減、(2) 収入の増加とも前年比で5%以上改善

B：A、C以外

C：(1) 経費の低減、(2) 収入の増加とも前年比で5%以上悪化

(観点Ⅳ) 公の施設にふさわしい適正な管理運営に関する取組

【ポイント】

施設の管理運営（指定管理業務）の適切な実施に向けた具体的な取組がなされ、その効果があったか

○指定管理者による実績報告

令和4年度 の実績	<ul style="list-style-type: none"> ○人員配置 施設の管理運営に必要な人員を配置しており、サービス提供に支障は生じていない。 ○職員の資質向上 従業員の各種セミナー参加の他、必要資格・講習を随時受講している。 ○地域や関係団体等との連携 あきた海洋少年団、(一社)秋田港有効利活用協会の他、船舶免許事業者、マリンスポーツ販売業者と連携している。また一般県民を対象としたワカメ刈取り体験会の実施している。 ○安全対策 機材・施設の点検結果から、必要に応じて修繕を実施し、利用者が常に安全に利用できる状態を保っている。 ○危機管理等 安全管理マニュアル、及び緊急時連絡体制を整備している。
--------------	--

(観点Ⅳ) の評価

	評価者	評価	コメント
評価欄	指定管理者	A	実績報告に記載のとおり、施設の管理運営等、指定管理業務は適正に行っている。
	県 (所管課)	A	適切な管理運営を行っており、円滑に指定管理業務を遂行している。

【評価基準】 A：順調（改善点なし）、B：概ね順調（重大な問題点なし）、C：改善が必要（重大な問題点あり）

県（所管課）の評価においては、モニタリング結果を踏まえて評価を行う。

【県の施策達成に向けた県所管課の施設運営に対する考え方】

※全施設記載

○県の施策の達成状況 (施設を運営することで、県の施策がどの程度達成されたか等) ・ 放置艇の受入などにより、水域の秩序維持に寄与している。 ・ 釣りイベントやワカメ刈取イベントなどを企画し、多くの県民が海洋スポーツやレクリエーションに触れる機会を提供している。
○施設運営の課題 ・ 施設の老朽化
○今後の方向性 (県の施策の達成状況や課題を踏まえて、今後所管課としてどのように対応していくか等) ・ 水域の秩序維持に加え、イベント等を通じた地域との関わりも多い。子ども連れの家族を対象としたイベントはほぼ満員になるなど、県民が海洋スポーツやレクリエーションに触れられる貴重な場として機能している。引き続き県民が安全に利用できるよう、老朽化への対策を計画的に行っていく。

【外部有識者委員会による評価（提言）】

※外部有識者委員会の評価対象となる約20施設について記載

評価（提言）
○施設の管理運営状況について (（観点Ⅰ）～（観点Ⅳ）に対するコメントを記載)
○県の施策達成に向けた施設運営について (県の施策達成に向けた県所管課の施設運営に対する考え方を踏まえてコメントを記載)

【外部有識者委員会による評価（提言）を踏まえた今後の対応方針】

今後の対応方針
指定管理者 (施設の管理運営等について今後の対応方針を記載)
県所管課 (県の施策達成に向けた施設運営等について今後の対応方針を記載)